

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>I 理念に基づく運営</b>			
	<b>1. 理念の共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域で暮らす入居者の生活援助の基本理念があり、地域の方に布ぞうり作りを教えてもらったり、地域のボランティア交流が増えている。	○	今後も基本理念に立ったサービスの提供体制を構築したい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	利用者が事業所の掲げるスローガンである「好きに暮らして、明るく安心」な生活が出来るようにスタッフは取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	利用者が地域の中に暮らし続けている様子は少ないが、中学校の職場体験を受け入れたり、公民館の方より布ぞうり作りの指導を受けたりしている。又、入居者の一人に、地域の会に参加なさっているので支援している。		
	<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周囲は田園に囲まれた農業地域ということもあって、日常的交流は薄いですが、隣接する医療機関関係者やその患者さんなど声をかけてくださる機会が増えてきた。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアなども増えてきて、少しずつではあるが、地域の一員として認識されてきていると思う。日本3B体操の受け入れ、中学校の職場体験活動など協力している。	○	今後、保育園との相互交流を予定計画し、公民館の文化祭には作品を出展したいと話している。
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	電話での照会に対するケアのアドバイス、及び連携医療機関の入院患者さんの認知症予防アドバイスなど、管理者からの情報発信はある。また、認知症100万人キャラバンのサポーター養成講座に参加したが、積極的活動にまでは至れていない。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回3度目である自己評価も、各自参加しての意義を理解している職員が多くなってきた。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、評価結果等報告は行っているが、活動取り組みが出来ているかは実感がない。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政参加については、まだ出来ていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し、ミーティング等での報告、また資料提供などを行い、内部研修に反映させている。	○	必要な方やケースである場合、窓口の紹介や関係団体の紹介に努め、側面支援していくよう考えたい。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、ミーティング等での報告、資料提供に努めて、内部研修に資するように努力している。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族の不安、疑問点を明確に確認することを心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ユニットの茶話会等で、意見など出てきた場合は受け止め、解決を図る努力をしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回「田尻の里だより」と日々の生活風景スナップ写真集をお届けしている。利用者個人ごとに作成し、介護方針、健康状況など付記している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付担当制があり、苦情があった場合は担当者会議等で協議し、職員ミーティングで話し合っ運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案などはユニットミーティング、両ユニット全体会議等で聞いてもらい、出来る限り可能な面は反映されている体制であると思う。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	予定されている状況、未定の状況であっても、要員の確保、勤務時間の調整等で努力している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ここ最近ではスタッフが落ち着いており、入居者と馴染みの関係が保たれていると思う。異動を考慮しなければならないときは、事前報告の上目的理解に努めるようにしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集等、年齢性別による選別はない。パートさんにも釈迦保険加入がなされ、社会的権利に関する保証にあっている。		事業所の理念は、利用対象者に限らず、当事者関係全てにわたる指針として、どなたにも適用されなければならないと考え、判断してきた。事業所運営そのものの第一義的理解として考えている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修参加を徐々に増やし、人権教育、啓発活動に取り組んではいるが、まだ不十分と認識する。	○	サービス提供の目的は一体何のためか、当事者としての高い意識を共有しあう努力をするために、個人の性格を互いに認め合っの信頼関係が醸成される必要がある。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修も年計画を立て、外部研修の機会を確保している。研修参加に際しては、認知症実践者研修、リーダー研修、その他基本的知識習得のためのケア方法に関する研修など、スタッフレベルを考慮したものとしている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近くのグループホームとの交流機会がある。当該スタッフと入居者の訪問であるが、これを足掛かりに地域の同業者との交流を続けたい。		今後、相互訪問等定期的な交流を行いたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務時、環境等でなかなかストレスを軽減することができないが、スタッフ同士ではコミュニケーション等で少しでも軽減できるよう工夫している。	○	管理者はもっと穏やかに受容のある態度で接して欲しいと望む職員もいる。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ユニットミーティング等で、介護、介護技術の勉強会の機会を持っている。また、ステップアップの機会があれば支援している。	○	今後も良いケア提供に向けて、向上心を持って働き続けたい。
	<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	どの職員も利用者の意見を聞く姿勢を示し、利用者の思いを受け止めるよう努力している。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居当初は家族の不安等を受け止め、スタッフ間で連携をとり、信頼されるよう努力している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要として いる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努め ている	出来る限り、必要な支援をしている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、 サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用 者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら 工夫している	入居者が安心して暮らせるよう家族と話し合い、 相談しながら入居を進めている。入居当初は可 能な限り面会にも来ていただき、職員や他者、 場の雰囲気にもなじめるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過 ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあ う関係を築いている	入居者様が生活している実感が感じられるよう、 一人一人の残存能力等を見極めながら、出来る ことをして頂いたり、楽しく感じていただけるよう に一緒に活動をしている。	○	今後とも茶話会などの席で、思いを表出する機 会を作り、入居者様から教えてもらったり、支え 合う関係を構築したい。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽 を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時には、現状を報告するとともに、 入居者差の思いを伝えたりしながら、ご一緒に 支援できるよう努力している。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関 係が築いていけるように支援している	ご本人の思いは家族にあるということを知って、 ご家族固有の関係を尊び、意見・要望・相談時 の希望にそう支援に努めている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係 が途切れないよう、支援に努めている	回想療法などを用いて、自宅訪問、思い出の場 所訪問など、馴染みの場所、人との関係が途切 れないよう努力はしているが、時間、職員人数 の問題もあって、頻回にはできないのが残念。	○	ドライブ途中自宅に寄ったり、退居された方の面 会、お見舞い等行っているの、もう少しそのよ うな回数も増やしていきたい。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用 者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	考え方や価値観が世代としての共有事項として 多い。そのことを知った上での個々の特性にそ えるよう申し送り等を行う。又、自分の時間を好 む入居者もおられるが、集団の活動参加も促し て、孤立しないよう配慮している。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要と する利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大 切にしている	他施設への住み替え、入院や退居の場合も、他 の入居者と共に面会に行ったり、近況を伝えたり している。	○	退居された方の近況など気にされるので、共に 面会に伺い、関係を断ち切らないようにしたり、 特に元気な方は自分の今後を心配されている 傾向も感じるの、安心のため面会を通して一 緒に暮らす思いを分かち合っていきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の希望や意向、個性を大切に、可能な限り希望にそう努力を傾けている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時家族から知り得た情報、及びコミュニケーションの中から知り得た情報をケース記録して、本人の意向の背景理解に努めたサービス提供に資するように心がけている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り、ミーティングを通して、心身の状態の把握に努め、残存昨日を活かした介護支援を行っている。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族にも意向、希望を確認しながら、スタッフミーティング、カンファランス、個人ケース記録等で集約を図って個別介護計画を実施するようにしている。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員ミーティング、ユニットカンファランス等で話し合い、急を要する場合は、申し送りノートでの意見交換を反映させて、可能な限り現状に即した計画作成を心がけている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や個人ケア記録および申し送りノートを作成し、介護計画に活かしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携、外食外出支援、定期外来受診付添の家族負担軽減、入院時の継続的面会などの支援をしている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	一部の方に限られているが、入居前の地域活動継続を支援する地域の協力者と連携して、本人の社会活動を支援している。	○	地域行事参加交流、公民館活動等できれば行っていきたい。
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	必要時、相談等があれば、関係者と図り支援する体制にある。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	活動の実績はない。	○	地域連携の在り方として、地域密着型サービスである以上、今後の展望から外すことなく努めていきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医療機関はあるが、本人やご家族の希望を大切にした受診支援を基本としている。		今後も方針に変わりはない。
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症専門医との関係が出来ている。外来受診体制も出来ている。また、アドバイスも受けている。基本的に支援体制は確立している。	○	認知症ケアに係る専門医によるアドバイスは、とすれば素人判断で流れてしまいがちな私どもの状況もあり得るので、今後ともその関係を保てるよう協力を願っており、報告を密にしてその体制を万全にしていきたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医療機関(医療連携先)の看護師に気軽に相談ができており、常時万全の体制に近い形で支援が出来ている。	○	提携医療機関は、在宅支援医療機関でもあり、全利用者の日常の健康管理に資する医療活動をお願いしているし、家族にも了解を得ている。今後とも、医療と介護の連携が重要なので、維持していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入居者が入院した時は、スタッフ及び他の入居者がお見舞いに行ったし、関係が切れないう努め、医療関係者との情報交換など行って、早期に退院できるよう協働している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	実際に重度化した時に、医療看護が増大し、看護師のいない日々の生活環境の中でどこまで看取り介護が可能なのか、現段階では家族、医師との話し合いにて、住み替えや入院措置の選択を余儀なくしている。	○	重度化や終末期ケアの重要な視点は、身体面と精神面の両面に対する必要十分条件の要件が満たされなければならない。また、ご家族を含めた選択の優先意向もあるだろう。介護提供側の一人自己満足的な判断は控えるべきと思うが、意向に添える今後の体制は課題でもある。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	チーム支援を行うための人員確保の観点から困難性を感じている。本人や家族の希望にできるだけ添ったケアの継続を願う思いもある。		メンタルフォロー的介護支援は可能だが、より重要な課題の一つには、身体苦痛緩和のための、随時の医療支援体制が不可欠な面が重い。誠実なサービス提供の在り方には、個別関係者の価値観や生活状況の優先判断的シチュエーションが大きいと思われる。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	実例的に特養への住み替えもあり、家族とともに話し合い、又、一緒に見学等行い、ケア提供関係者間での情報交換に努めて、可能な限りの生活感継続が図られるよう支援している。		
	<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングやカンファレンス等で、反省点を踏まえながら確認徹底を図るように努めている。	○	常にスタッフは、自分の言動を振り返り、是正するよう全員自覚を促していく。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	個々の思いを表出できる機会を作り、信頼関係を深める努力と自己決定に向けた支援をしている。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することなく、希望に添う支援を出来る限り展開している。毎日でも可能な入浴や、入浴時の髪染めなど、希望をかなえて上げられる体制に努めている。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	訪問理美容、また髪染めなど本人が望む身だしなみ、おしゃれができるように支援している。又、衣類などの購入も自分で選べるよう一緒に買い物に出かけている。	○	女性は特におしゃれにこだわりもあり、その思いを大切に支援していきたい。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の得意な分野で可能な部分を手伝ってもらっている。野菜切りやごますり、盛り付け、配膳下膳など喜んで参加下さっている。	○	入居者、職員それぞれに得意があり、その得意分野を生かし合って互いにレパトリーを増やし、食べたい物を提供し、食べる楽しみを支援していきたい。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在はドクターストップがあつて、お酒、たばこを日常的に楽しむことができないが、たまのアルコールを配慮してあげての支援は、いつでも考えていきたい。おやつは好みを把握し、出来るだけ手作りを心がけている。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄パターンを把握し、気持ちよく排せつできるように支援努力している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	個々の希望に合わせて、時間、曜日を決めず、気持ちよく入浴できる支援をし、中には長時間の入浴もあるが、見守り等行って安全確保の上に希望に叶うサービスの提供を心がけている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝時間にこだわらず、ある程度自由に就寝できるような支援をしている。安心して気持ちよく休息安眠できるよう、照明、室温、寝具等の保身に配慮した環境であるよう支援している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴から窺える趣味や考え方が活かされるよう縫物、布ぞうり作り、野菜や植物の世話、洗濯、調理、掃除の役割、習字、歌唱、買い物、散歩など、めいめいのライフスタイルに対する支援。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の残存機能に応じて、管理できる金額を所持されたり、使われたりして、生活者としての自負心が損なわれないよう支援している。	○	お金を持っていない不安を訴える方もいるので、一人一人に応じて、家族にも依頼、報告等を行い、生活していると実感・自負できるような支援をしていきたい。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望にそって支援できるよう努力しているが、人員確保上の勤務状況によっては、困難なときもあるが、許される、或いは可能な限りの外出支援を大事にしている。	○	近隣に気軽に立ち寄れる図書館などがあると嬉しい。(まもなく図書館が出来るとのことなので楽しみにしている)
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族とともにとはいかないが、個別に入院中の家族を見舞ったり、他の入居者と一緒に外出したりして、機会作りに努力している。	○	今後も一人一人の思いを大切に、希望があれば職員確保など可能な限り努力した支援を果たしていきたい。
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が望まれば、電話連絡や手紙を寄せるなど、本人が出来ることへの支援にあたっていく。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間の原則はあるが、常にオープンな出入りができるように配慮した形で進めている。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修、内部研修も積み、言葉による拘束など、思いもかけない結果的拘束がなされないようチーム一丸となってその意識の共有に努めている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠すれば不安行動を加速させることを理解し、居室や玄関に施錠することはしていない。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながらも安全確保はケアの核であると考え、昼夜を問わず所在や様子観察等の把握に努めている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々に想定される危険物回避および環境整備など努力を重ねている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	インシデント・アクシデント報告、反省、改善策などの実践をしている。原因を具体的に理解把握する実行姿勢でのミーティングを持ち、事故防止に全力を傾けるチームケアに取り組んでいる。	○	まだ、インシデント報告は多い。職員個々の意識レベルの高さが求められ、実行する厳しさが必要と判断している。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	研修にも順次参加して対応できるように努力している。吸引機取扱いなど医療機器も連携医療機関の看護師の協力のもとにユニットミーティングを通して講習を行った。	○	今後も順次参加の研修対応を進めていく。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災発生時の初期消火、通報、避難誘導訓練にとどまっている。	○	過日の水害や地震など危惧される災害もあり、スタッフからも不安の声が上がっている。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	想定される一人一人の特性から起こり得るリスクは、家族にも面会時また、「田尻の里だより」などでも報告している。ユニットミーティング時は、特に対応策等話し合っている。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定をし、日常的に観察を行い、変化や異変の把握に努めるよう、申し送りの徹底、情報の交換共有について努力を重ねている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員の一人一人が薬の目的や副作用、用法用量について理解把握できるよう個人別の「薬手帳」を作成している。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食品としても、寒天や豆類、海藻など一日に一度は摂取できるようメニューに組み入れ、排便コントロールに資する食事の提供をし、併せて水分補給、適度の運動確保にも力を入れている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人一人の力に応じ、毎食後声掛けをしたり、見守りを行ったり、一部介助したりしてケアに努めている。また、週2回のポリデント消毒及び口腔ケア用品を用いて衛生管理にも努めている。		訪問歯科医のアドバイスを得ることができるような体制にしている。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の習慣もあり、ペットボトルや急須にお茶や水を準備したり、食事外にもコーヒータイムや茶話会の席を設けたりして、いつでも水分補給ができるよう配慮している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防の研修にも毎年参加し、全体ミーティング、ユニットミーティング時に再度検討し合っている。また内部マニュアルもあり、計画的にその予防に関する努力を重ねてきている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	ハイター消毒、スチーム消毒など定期に行うようマニュアル化され実行している。肉・魚・野菜などの生鮮食品は毎日配達され、保管に留意しながら、その日のうちに消費するようにしている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節の花を植え、ベンチ等を配して、入居者が外気浴を行ったりしているが、ホームが田んぼの中とあって、近隣の人との交流機会が少ないのが残念である。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は季節の物を置いたり、入居者の制作作品を飾ったり、職員との合同で制作したもので楽しめるように空間作りを心がけている。生活感や季節感を採り入れた配慮のもとにそれらを進めて、居心地の良いものにする努力を傾けている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	萱のコーナーを作ったり、セミハブリックスペースとしてのソファも配置して、自由に過ごされる環境整備に工夫してきた。二三人単位の入居者がよく利用されている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別の趣味や持ち物等を配置し、本人が思いのままに快適に過ごせるよう、家族とも相談し合って支援している。事故リスクもにらみ、安全確保上のチェックも怠らないようにして、その支援を心がけている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日5回、温度湿度チェックの実施、記録を行っている。空気清浄機システムがユニットごとに配置されているが、併せて強制換気も行って常に適度なエアレーションに心がけている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ、居室、浴室など随所に手すりを配置し、安全が保たれる設計がされている。ベッド回りにも介助アシスタントバーおよび必要な方へのセンサーマット等の装備に努めて、ハード的にも安全確保重の施策を用いている。	○	身体機能の低下は少しずつあるので、早め早めに安全の確認を行い、環境整備に今後ともあたっていく。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自尊心を傷つけないよう、プライバシーに留意しながら、できること、できないことの支援の在り方に配慮したケアを提供している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダや外回りは観葉植物や野菜を植え、入居者の持ってこられた火鉢を利用して、金魚を飼ったりしている。また、敷地の一角では、野菜くずなどを利用した土づくりなども行っている。	○	夏野菜を作ったので、今は何の冬野菜にしようかと入居者を交えて皆で話し合っている。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
<b>v サービスの成果に関する項目</b>		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き活きと働いている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 ○ 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない